

心の原風景 —我が母校—

佐渡市立真野中学校

4月の入学式当日、真野中学校の校門を過ぎて正面玄関へ向かう新入生は、誰もが「立志力行」「協力親和」の石碑を目にしたことでしょう。これは、真野中学校に代々受けつがれてきた校訓です。

この校訓をより具体化した「感謝する心」「素直な心」「努力する心」の「三つの心」を大切にしながら、現在、133名の生徒が、落ち着いた雰囲気の中で、学業やスポーツに励んでいます。

最も力を入れているのは、「分かる喜び・学ぶ楽しさ」を味わえる学習指導の実現です。隣接する真野小学校と連携し、授業改善と家庭学習の充実に力を入れています。その結果、次に家庭学習の時間が増えてきました。



「総合郷土」発表会 鷺流狂言

また、「総合郷土」の時間を設定しています。地元の方を

講師に招き、鷺流狂言、文弥人形、佐渡おけさ、和太鼓、竹細工、版画、工芸、生花、茶道、リコーダーの中から一つ選んで学習します。生徒は1年生から3年生まで一緒になつて、技術や動作を学びながら、創作や表現活動に取り組みます。そして、学習の成果は、文化祭で披露します。苦労は多いのですが、表現する喜びや伝統芸能の素晴らしさを実感できる貴重な時間です。

なお、恵まれた環境を生かして、部活動も盛んです。

特に今年は、新しく生まれ変わった佐渡市陸上競技場で実力を養成した生徒のうち、男子駅伝部が北信越大会で5位に入賞するという、望外の喜びを味わうことができました。

そして、3月の卒業式。証書を持った卒業生が、校訓と3年間の思い出を心に刻んで、二つの石碑を後にします。



陸上競技場で体力づくり

真野中学校は、このようにして、毎年社会をになう人材を輩出しています。

◆教育委員会学校教育課
(両津支所内) ☎23-4898



佐渡をジオパークに

ジオパーク、推進日記

21

さあ、「ジオパークの人」になろう！

昨年11月に、高知県室戸市を会場に「日本ジオパーク全国大会」が開催されました。今回の大会が3回目ということからも「ジオパーク」という取り組みが、まだまだ始まったばかりの活動であると言えます。大会は、各地でジオパーク推進活動に携わっている関係者が、日々の課題や成果のあった活動を発表するなど活気に満ち溢れていました。

国内では、ジオパークの取り組みに手を挙げた地域が3年間で40地域にまで増えました(平成24年10月10日現在)。それだけジオパークを通じた地域づくりに魅力を感じて推進活動を開始した地域が多いのです。室戸岬や弘法大師の歴史・伝説が有名な「室戸ジオパーク」は、国内で5番目となる世界ジオパークへの加盟を果たしました。太平洋に面しており

『海と陸が出会い、新しい大地が誕生する最前線』をコンセプトに地域が一体となつて取り組んでいます。

日本海側とは違つともダイナミックな大地の見どころもたくさんありましたが、印象的だったのは地元ボランティアさんたちです。大会本部とは別に集落単位で大会を盛り上げようと名乗りをあげ、ジオツアーや交流会を企画し室戸大会に貢献していました。

朝早くから夜遅くまで準備に取り組んだ集落の方々にお話を聞くと、



海と陸が出会い、大地が誕生したことを示す「隆起のポーズ」

◆教育委員会社会教育課ジオパーク推進室(両津郷土博物館内)
☎23-2101